【県指定・有形文化財（絵画）】

三十六歌仙絵扁額（さんじゅうろっかせんえへんがく）

（令和４年４月 26 日指定）

左一　柿本人麿

ほのほのとあかしのうらの朝きりに
しまかくれゆく舟をしそおもふ

右一　紀貫之

さくらちる木のした風はさむからて
空にしられぬゆきそふりける

○　**所在地**　　出水市本町３番 14 号（出水市歴史民俗資料館）

○　**所有者**　　出水市

○　**特　徴**

三十六歌仙とその和歌が記された歌仙絵の扁額で，山部赤人（やまべのあかひと）を除く 35 枚が現存しています。かつては愛宕（あたご）神社（出水市）の所蔵でしたが，昭和 46 年７月 10 日に出水市指定文化財（絵画）に指定され，出水市立歴史民俗資料館に保存されています。作者については「狩野雄尽（かのうゆうじん）」とする説がありますが，この絵師について詳しいことはわかっていません。画風は，顔の造作や髪の流れ，衣装の文様などが比較的丁寧に描かれ，体躯（たいく）に比して頭部が大きく，のっぺりとした顔貌（がんぼう）をもつなど，中世風な画風が残ります。和歌については，近衛前久（このえさきひさ）が記したという記録があります。

三十六歌仙絵扁額として制作年代も古く（1577 年），天正年間（1573 年～1592 年）に地方へと伝播（でんぱ）した狩野派（かのうは）と推測される絵画として注目されます。また島津家と近衛家との交流を裏付ける歴史資料としても非常に重要です。